

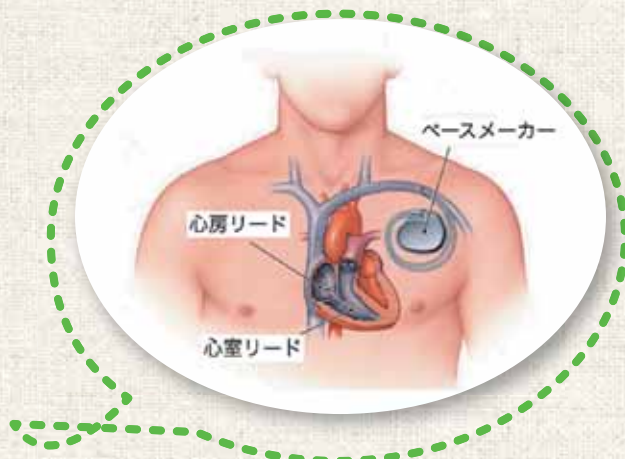
# 遠隔モニタリングって なまに?

臨床工学科 副主任 福井 謙治



皆さん、臨床工学技士をご存知ですか？臨床工学技士は1987年にできた国家資格で医療関係の資格では比較的新しい資格です。主に医療現場で使用されている機器の保守・管理や適正に操作をすることが業務です。明石医療センターでは主に機器管理、人工透析、人工心肺、カテーテル検査・治療、集中治療、ペースメーカーの業務を行っています。

今回はペースメーカーの遠隔モニタリングについてお話しします。まず、ペースメーカーとは脈が遅くなった患者さまの体内に植え込む機器のことです。心臓にリードという電線を留置し、本体で電気を発生させ、直接心臓を電気刺激します。植え込んだ後はペースメーカーが正常に作動しているか4～6ヶ月毎に外来で検査をする必要がありますが、当院では遠隔モニタリングを使用している患者さまは9～12ヶ月毎に期間を延ばしています。では、遠隔モニタリングについて説明します。遠隔モニタ



リングとは、患者さまがご自宅にいながらペースメーカーの情報を医療従事者が確認できるシステムです。ご自宅に専用の通信機を置き、主に就寝中にペースメーカーと通信を行い携帯電話の回線または固定電話の回線を使用し、各管理会社へ情報が送られるようになっています。管理会社へ送られた情報を医療従事者がイン

ターネットで確認できるようになっています。当院では臨床工学技士が情報を確認し、対応が必要な患者さまがいれば医師へ連絡します。次に患者さまへ電話連絡し早期に対応できるようになっています。

遠隔モニタリングがなかった時には体調が悪くなってから診察を行い不具合が分かることが多かったのですが、今では体調が悪くなる前に対応できることが多くなっています。

現在使用している通信機はコンセントを差し、電源を入れたあとは自動で通信を行うようになっている機器が多いので、機械が苦手な方でも簡単に使用できるようになっています。遠隔モニタリングについてご質問等ございましたら、当院の循環器内科医師にお尋ねください。

